

平成29年度
三田市予算編成に関する
要望書

日本維新の会

三田市議会議員団

多宮 健二 小山 裕久

平成29年度 三田市予算編成に関する予算・施策要望

三田市では、これまで一般会計における3%のシーリング等により、県下においても比較的、健全な財政状況を維持されてきました。しかしながら、市民病院の経営状況や、今後の公共施設の問題、また、少子高齢化の影響による財政の悪化が今後予測されています。そのような中、昨年8月に誕生いたしました森市長のもと、市職員の皆さまが一丸となり、この難題の数々に取組まれていることに対し、敬意を表するしだいでございます。

我々、日本維新の会三田市議会議員団といたしましては、財政状況と地域の将来事情を鑑みながら、合理的かつ効率的な事業を求めるとともに、将来の三田市を築くための予算編成および施策を次のとおり要望いたします。

平成28年11月7日（会派 日本維新の会三田市議会議員団）

項 目	要望説明
【企画・総務】	
頑張る職員のモチベーションが持続する職員基本条例の制定	三田市には真面目に取り組む職員が多いが、全国的には公務員の不祥事が未だ発生している。「三田市の職員はよく頑張っている」と評価していただけるための基本条例を制定。
給与構造改革への取り組み	人事院勧告制度ではなく、三田市独自の給与制度を確立し、各責任や働き、頑張りにお応じての給与とする。
職員の市内在住率向上への取り組み強化	危機管理で考えると、現在、市内在住者への負担は大きい。様々な事態を考え、一人でも多くの市内在住者を増やす。
庁内の事務作業見直しによる効率化及びICT強化によるペーパーレス化	27年度は33.4tのコピー用紙が使用されている。決裁方法見直しによる作業効率向上と紙の使用量を減らす。
市民活動リーダー育成プログラムの構築	まちづくり提案など活用しようとする方はいるが、採用されない案件が多い。活動意欲を維持していただくためにも、どのような条件が整えば採用されやすいかなど、市民活動リーダー育成に取り組む。
各窓口等における翻訳機の設置	現在、語学力のある職員を意識的に配置はしていない。三田市にも様々な国から来られているので、どの職員でも対応できるように、翻訳機の設置。

	【市民病院】	
	小児救急医療体制の強化	救急診療では、市民病院よりも神戸北区の病院に行くことが多いように見受けられる。市民の負担を考えると成人はともかく、三田市内の子どもについては、市民病院で対応できるよう努める。
	【まちづくり】	
	市内道路の一元管理	国道、県道、市道とあるが、市内の道路は国や県などの委託を受け、市で管理。
	農村部での診療所設置	高齢化に伴い通院が困難になる市民が増えると予測される。週二回程度の診察が行えるよう診療所の設置。
	公共施設等へのミストシャワーの設置	近年、猛暑が続いており熱中症患者も増加している。外出時の熱中症を予防。
	空き家を活用した若者世帯への支援	ニュータウンが高齢化し始め、子供も減ってきている。農村部も含め、高齢化対策として、空き家の購入もしくは借家についても若者世帯への助成金などによる支援にて地域活性化を促進。
	新婚世帯家賃補助事業の拡充	三田市内は近隣市に比べ、家賃が高く市内のカップルも結婚時に北区等へ転出をするケースが見受けられる。新婚時より市内に住んでもらうために、現在の家賃補助事業を拡充。
	各地域実態に見合った地域交通網の整備	おでかけサポートとして取り組まれようとしているが、事業が停滞しないよう、進捗状況をみながら適切な対応を行うこと。
	三田市での開業（医療）を条件付けした給付型奨学金制度の創設	都市部での医師が多く、地方では不足している。現時点では将来的にも改善は見込めないため、将来の三田市内の医師を確保するために、条件付き給付型奨学金を創設。
	三世代同居奨励金制度の創設	高齢化で様々な課題が生じているが、同居により解決される課題も見受けられる。他市では同居により、月5,000円の奨励金を出しているところもあり、三田市でも制度導入。
	既存の運動施設の整備強化	市内の運動施設のメンテナンスが悪い。グラウンドの整備も十分でないことから、市の施設として気持ちよく利用してもらうための整備が必要。

道の駅さんの創設	日帰り観光客を呼び込む手段として、全国的に定着している道の駅を活用。
中心市街地活性化への取組み	元気の良い街はどこも駅周辺が賑やか。三田駅前の商店街や、本町通りなどを活性化して三田市の魅力を高めるべき。
市内照明LED化へ早期の切換え	自治会への補助ではなく、三田市の予算のみで全市のLED化に取り組む。
通学路における防犯カメラの設置	全国的に登下校時の事件や事故が多発しており、三田市内においても児童の安全確保に努める手段の一つとして設置。
災害への備えとして旧市街地等の道路拡幅整備	三田市内には、車両の入れない地域があり、地震や水害、火災などの災害時の対応や避難が困難である。早急に対策を講じること。
歩道のない通学路のカラー化	市内のいくつかはカラー化されているが、まだまだ十分ではなく、早期のカラー化を要望。
【福祉】	
福祉避難所の早期設置	現在の一か所では、避難者を受け入れることは困難。一つでも多くの福祉避難所設置が必要。
福祉収集の実施	戸別収集方式以外の近隣市では行われている。高齢化も進むなか、該当者が少ない時から取り組み、将来に向けた体制を整えることが必要。
認知症ゼロを目指すプログラムの作成（愛知県大府市）	愛知県大府市で取り組まれている施策。運動などによる認知症予防。5000人を対象とした認知症チェックを行い、市内実態を把握。三田市でも認知症の症状がある方はもちろん、今後、誰もがなりうる認知症の予防対策を構築
病児・病後児保育の強化	市内の施設の状況と、ニーズにはかなり差がある。病状にもよるが安心して働ける環境づくりの一環として、市内の病院等に協力依頼。
健康マイレージへの取組み	病気予防のため、積極的に運動等に参加してもらい、マイレージ制度を導入。

	【教育・文化】	
	教育バウチャー制度（学校外）の確立	塾や習い事など、子供たちの成長に欠かせない教育費として、クーポン券の発行。
	日本語教育及び日本伝統文化の学びの強化	グローバル化が進むなか、日本の良さを再認識することが必要。
	小規模学校等による英語習得のための環境づくり	日本の良さを知ることとは別に、グローバル化のなかでは英語力も必要。授業全てを英語で行うなど、学校規模に応じた特色性を持たせ、英語力の強化。
	食育を鑑みた地域の活用及び自校方式による給食の提供	食育や地産地消を推進するため、自校方式に切り替えいびつな野菜も調理できるようにする。調理には地域の子育て世代を中心に主婦等を採用。
	学校教育ICT活用の強化（プログラミング授業など）	脳の働きが柔軟で活発な義務教育期間に、将来必須となるICTの活用と考える力を与えるプログラミング授業の導入。
	グローバル人材育成への取組み	中学生対象とした、希望者による短期間の留学。
	部活動の市内広域化	入りたい部活動が通学校にない場合、他校の部活動に参加できるよう配慮。
	【環境】	
	危機管理対応も含めた包括的なごみ収集事業を構築し、地域担当者としての委託	市内を5、6地区程度に分割し通常の家系ごみ収集を中心に福祉収集、粗大収集、事業系ごみ収集等のごみにかかわることを委託。地域担当者として災害時の安否確認などを行う。
	ごみ処理事業の広域化による財源の確保	新施設の建設に伴い、西宮市山口町や宝塚市西谷、神戸市北区などのごみを処理。処理量に応じた経費と負担金を各市より徴収。
	木質バイオマスを燃料とした発電システムの構築	三田市独自もしくは近隣市との提携し、発電システムを構築。市内の山林を伐採することによる土砂災害防止と雇用の創出。
	【商工観光・農業】	
	三田ブランドを構築するための、農作物の選択と補助金制度の創設	これからの特産品として、品種を選定し集中的に補助金を支出。一例ではあるが有馬高校のブドウやトマトは非常に美味しく人気である。
	若者世代への雇用創出	市内の求人倍率が極めて低く、都市部に労働者が流出。さらに都市部での人手不足が懸念されており、市内の雇用が無ければ市外への転出も見込まれ、早急に対策が必要。